



高齢者対策について

創志会 倉橋 正美

問 急激な高齢化が進み、直近の課題として2025年問題があります。高齢者の割合がこれまでになく高まり、医療費・社会保障その他の課題にどう取り組んでいくかが大きな問題となることが指摘されております。

2025年頃には医療・介護などの負担と給付のバランスが大きく変化し、持続可能な社会保障財政の運営にも大きな影響が及ぶと懸念されています。

そこで、海老名市における高齢者の推移と今後の推計について伺います。また、「えびな高齢者プラン」について、これまでの中間評価と「第7期えびな高齢者プラン」の策定をどのようにしていくのかを伺います。

答（市長）：本市の65歳以上の方は3万人を超えており、4人に1人が高齢者であることから、高齢者対策は大きな問題であるものと認識しています。平成28年2月に策定した「海老名市人口ビジョン」では、2025年の本市の総人口は13万6千人、うち、65歳以上の方は3万3千人、高齢化率は24・0％と推計しています。

本市では、平成30年度から始まる「第7期えびな高齢者プラン21」においては、第6期計画の評価と併せて、サービスの内容や費用などを見極め、適正な介護保険料を設定してまいります。また、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの推進に鋭意取り組んでまいります。

その他の質問

・海老名駅
東口地区の
都市基盤整
備について
・公共施設
再編計画の
進捗状況に
ついて



第7期の策定に向けた検証を



学童保育の待機児童対策について

いちごの会 西田 ひろみ

問 小学校入学時に学童保育に入所できないなどで、母親が離職する「小1の壁」が社会問題となつています。本市では保育園の卒園児数よりも小学校1年生の学童保育登録数が少ないことや小学校入学を機に働き始める母親も多く、総体的に学童保育の待機児童がいると思われまふ。来年度入所説明会や選考が始まり、希望する学童保育に入れなかつた保護者の声、おこわりの学童保育の声も聞かれます。学童保育の待機児童の実態把握と、今後の対策について伺います。

また、特に海老名駅周辺地域の今泉小学校区は、マンション建設による人口増が見込まれます。平成27年には児童の7分の1が学童保育に登録しており、同区の早急な学童保育対策が必要ですが、市の考えを伺います。

答（教育部長）：学童保育入所希望者は、社会的ニーズや本市の人口動態などから多い傾向が続くと思われまふ。現時点では、待機児童は発生していないと捉えています。安定して児童を受け入れられる環境の整備は、学童保育と市が共に取り組むべき課題であると認識しております。解決に向けては、施設面の整備により定員枠を増やすことが有効であり、空き教室やまちづくり部とも連携しながら空き家などの情報を適宜学童保育に提供し、受け入れ態勢を共に整備してまいります。

その他の質問

・産前産後ケアについて



商店版リフォーム助成について

創志会 中込 淳之介

問：これまで海老名のにぎわいづくりや地域活性化策、商店への支援策など力を入れて取り組んでまいりました。その中でも商店版リフォーム助成制度の必要性を強く感じ、議会でも繰り返し質問をしてまいりました。

この助成制度の導入によって、リフォームを行う市内の商店には活気が生まれ、市内建築関連業者にはリフォーム工事の受注が増え、まさに市内商工業者の活力と地域経済の活性化につながる制度であると高く評価をしております。この商店版リフォーム助成制度の仕組みを伺います。

答（市長）：本助成制度を効率的に運用するために、市内業者を熟知している商工会議所が主体となって事業を行い、市は商工会議所に対して補助を行います。

答（経済環境部長）：助成内容は、事業を営んでいる方または開業予定の方が行う改装・改修工事に対して行うもので、対象業種は、小売業、飲食サービス業、生活関連サービス業です。助成金額は、改装・改修工事経費の3分の1、家賃については対象経費の2分の1を予定し、さらに市独自の優遇措置として、営業年数に応じた加算額を設けます。

今年度は、既存店舗を対象とした助成を実施してまいります。さらに充実した制度となるよう商工会議所と調整しながら事業を進めてまいります。

その他の質問

・ふるさと納税について

